

計測自動制御学会 中部支部シン ポジウム2010(案)

(2010.7.12 更新) 開催(案)のホームページを公開しました。

主催:計測自動制御学会 中部支部

共催:信州大学繊維学部

後援:信州大学GCOE,(財)長野県テクノ財団浅間テクノポリス地域センター

協賛:浅間リサーチエクステンションセンター(AREC)

平成22年度の計測自動制御学会中部支部シンポジウムを下記の要領で開催いたしますので、多数ご応募下さいますようお願いいたします。学術研究の口頭発表、ポスター発表に加え、企業技術者による製品展示・技術発表会を開催します。産学官による技術交流の場としてご活用下さい。

期 日: 2010年10月29日(金)

会 場: 信州大学繊維学部・講堂 [長野県上田市常田3-15-1, 電話0268-21-5300(代)]
JR長野新幹線「上田駅」下車, 徒歩約15分

スケジュール:

9:00 - 11:00 研究発表(口頭発表)

11:10 - 12:10 特別講演(信州大学繊維学部100周年記念事業)

「題目: Application of Stem cell and Silk Protein in Tissue Engineering」

張 学光 教授(中国蘇州大学 副学長、蘇州大学生物技術研究所 所長)

Tissue engineering in a classical sense implies the use of organ-specific cells for seeding a scaffold *ex vivo*. There are two components: the seed cells that will replace the dead cells and regenerate the organ, and the supporting framework that will distribute the cells evenly and maintain the 3-D shape necessary for proper functioning of the organ. Stem cells, a good chose of seed cells, are found in all multi cellular organisms. They are characterized by the ability to renew themselves and differentiate into a diverse range of specialized cell types. Commonly, stem cells mainly come from: Embryos formed during the blastocyst phase of embryological development (embryonic stem cells) and Adult tissue (adult stem cells, which include mesenchymal, hematopoietic stem cells, neural stem cells, etc), apart from this, in recent years, the induced pluripotent stem cells (iPS) are also recognized as a new source for stem cells.

(信州大学GCOE, 信州大学繊維学部との共催につき聴講参加費無料)

13:00 - 13:05 計測自動制御学会(SICE)中部支部長挨拶

13:05 - 14:05 SICE中部支部信州地区計測制御委員会チュートリアル特別講演

「題目: GPUプログラミングと遺伝的アルゴリズム」

藤本典幸 教授(大阪府立大学大学院 理学系研究科)

PCのビデオカードに搭載されているGPUは、低価格でありながら整数演算性能・実数演算性能とも現在のマルチコアCPUを大きく上回り、CUDA、OpenCLなどの開発環境を用いれば、C言語を用いて比較的容易に汎用プログラミングが可能である。本チュートリアルでは、GPUプログラミング、遺伝的アルゴリズムをGPUにより高速化する研究に関する動向および講演者の最近の研究成果について解説する。

14:15 - 15:15 SICE中部支部信州地区計測制御委員会ワークショップ特別講演

「題目: スワームロボティクス ー人工生命から20年を経てー」

大倉 和博 教授(広島大学大学院 工学系研究科)

近年、スワームロボティクスというパラダイムが確立しつつある。これは、多数の自律ロボットの群れ行動を自律分散的に制御しようとするものである。これとほぼ同じ分野は、約20年前に人工生命の重要課題として取り上げられていたが、そのブームが去るとともに研究熱も後退していった。本講演では、この分野の再興がどのように起きているのかを概説する。

15:25 - 16:55 ポスターセッション/ポスター発表、製品展示・技術発表

17:15 - 18:45 懇親会

講演申込締切: 2010年10月1日(金).

講演申込方法: E-Mailあるいは郵便にてお申し込み下さい。 [発表申し込み票](#) は、こちらをクリックして入手して下さい。

ご発表1件ごとに発表申し込み票1枚でお申し込み下さい。また、E-Mailでお申し込みの場合は、発表論文名、発表形式(口頭発表(学術研究に限る)/ポスター発表/製品展示・技術発表の別)、著者名(全員、発表者に○)、所属、連絡先(住所、電話番号、E-Mail)を記載の上、ご送付下さい。

なお、プログラム編成の都合上、発表形式についてはご希望とは異なる形式に調整させていただく場合があります。あらかじめご了承下さい。

参加申込方法: 事前の参加申込は不要です。当日、会場にて参加申込下さい。

講演発表形式と講演時間:

- ・研究発表(学術研究に関する口頭発表)は1件15分(発表12分、討論3分)
- ・ポスター発表、および製品展示・技術発表は15:25-16:55の90分間

講演原稿: 口頭発表:A4版4ページ以内、ポスター発表/企業技術者による発表会:A4版2ページ以内。(いずれも、表題、所属、著者名、アブストラクト、図表を含む)。

原稿締切: 2010年10月12日(火) 必着

原稿作成要領: 研究発表(口頭発表)の論文原稿は、和文、または英文で、A4版4ページ以内(表題、所属、著者名、アブストラクト、図表を含む)。原稿は2段組、左右上マージン20mm、下マージン25mmで作成下さい。ポスター発表、および製品展示・技術発表の論文原稿はA4版2ページ以内(表題、所属、著者名、アブストラクト、図表を含む)で作成下さい。

詳しくは、こちらの[原稿作成要領](#)をご参照下さい。[原稿見本](#)はこちらを参照下さい(見本は参考の形式です。原稿作成要領に則って作成いただければ、結構です。)。なお、お送りいただいた原稿は、講演論文集にそのまま印刷されますので、図、表、画像などは鮮明なものをお使い下さい。

論文原稿送付方法: 論文原稿をpdf化した電子ファイル、あるいはMS-Wordの電子ファイルをE-Mailにて下記問い合わせ先までお送り下さい。印刷環境における文字化けを避けるため、pdfファイル作成時にはフォントを埋め込む形式で作成をお願いいたします。なお、pdf化が困難な場合には、印刷された原稿を郵送でお送り下さい。その場合には、提出締め切り日に余裕を持って郵送いただければ幸いです。

ポスター作成要領: ポスター掲示用パネルは下記の仕様となっております。ポスター発表1件につき、パネル1枚(片面)をご使用いただきます。

パネルサイズ: W900×H2100mm

ポスター掲示方法:

(方法1)画鋏でポスターを貼る。

(方法2)パネル上部からワイヤーフックを使ってフレーム等の枠を吊り下げる。

ワイヤーとワイヤー先端に取り付けるS字フックは、ご希望者にご用意しますのでお知らせ下さい。

※パネル素材が布なので、粘着テープでの掲示はご遠慮下さい。

企業技術者による製品展示・技術発表: ポスターの作成要領は上記と同様です。製品展示のための机をご用意いたします。ACコンセント等をご利用の場合には、事前に下記問合せ先までご連絡下さい。

ポスター掲示・展示設営時間について: ポスター発表会会場は講堂(2F)です。ポスター発表のご準備は、下記の時間帯にお願いいたします。

10月29日(金) 12:10~13:00、15:15~15:25

上記の時間外は、講演を行っていますので、ポスター掲示・展示物設営はご遠慮下さい。

講演プログラム:

ポスター発表配置図:

著作権: SICEに帰属します。

参加費: 一般 1,000円, 学生 500円 (参加費には講演論文集代が含まれます.)

懇親会: 10月29日(金) 17:15-18:45(一般 2,000円, 学生1,000円を予定)

参加費支払方法: 当日, 会場にてお支払い下さい.

問合せ先

信州大学 繊維学部 松村嘉之

TEL/FAX (0268)21-5616

E-mail : matsumuLAB の後に@shinshu-u.ac.jpを加えて送信下さい.